

みんなちがってみんないい

R2その(8) 指導教諭 木村 栄

「言語・聴覚・視覚」に関わる障がいについてお話しします。

「言語」＝「ことば」発語に関わるもの

「聴覚」＝「聞こえ方」聴力に関わるもの

「視覚」＝「見え方」に関わるもの

と考えていただくと分かりやすいと思います。これは学校教育法で分類される「障害種」で、それぞれについて「特別支援学級」または「通級指導教室」の対象となります。

「言語障害」と言ってもその対象となるものはいくつかありますが、今回は「吃音(きつおん)」と「構音障害」についてお話しします。

「吃音」とは、言葉を発しようとすると同じ言葉を繰り返す連発(例:ぼ・ぼ・ぼ・ぼくは…)、伸ばすつもりではない言葉が伸びてしまう伸発(例:ぼ——くは…)、言葉が出せずに間が空いてしまう難発(例:・・・ぼくは)、それらが重複してしまう症状など、発話の流暢性を乱す話し方を自分の意思でコントロールできない状態と定義されています。

「吃音」は「発達性吃音」と「獲得性吃音」の2つに分類されます。「発達性吃音」は幼児期から学童期に発症することが多く、「吃音」の9割に当たります。そのうちの7～8割は自然消失すると言われてはいますが、残りは成人後も固定化します。「獲得性吃音」はストレスや精神疾患、脳損傷などの外的要因に起因するものです。

「発達性吃音」は未だに発症原因・メカニズムともに特定されておらず、有効な治療・改善方法がありません。そのため、医療機関や言語外来や「言語通級指導教室」では、心理的サポートを中心に支援を行っています。

次は「構音障害」です。言葉は口の形や舌の動き、声帯や息の使い方が適切に連携することで相手に伝わる言葉として発せられます。「構音障害」は、器官自体やそれらの動きに問題があるため、不明瞭な言葉になってしまうなどの症状が見られます。

「構音障害」は、トレーニングにより機能改善が可能です。「言語通級指導教室」が設置されている場合は通級指導でトレーニングが可能です。残念ながら時津町には設置されていませんので、言語聴覚士のいる医療機関にてトレーニングを行うこととなります。

次は「聴覚障害」です。「聴覚障害」は、疾患も含め聴覚器官に原因があるため、音や声が「聞こえない、聞こえにくい」状態のことです。もう少し詳しく説明すると、「全く聞こえない状態」のことを「聾(ろう)」、「聞こえ難い状態」のことを「難聴(なんちょう)」と分類します。障害の程度は、聞こえる音の大きさにより「軽度・中度・高度・重度」の4段階に分類されます。

「難聴」は障害のある部位によって「伝音難聴」…音の振動を伝える外耳～中耳に障害がある

「感音難聴」…音を信号として感じる内耳～聴覚神経に障害がある

「混合性難聴」…両方が混在している

と分けられます。生まれつき聴覚に問題がある先天性と、病気や環境要因などから発症する後天性の場合がありますが、先天性の場合、音がはっきりと認知できないために発音にも影響を及ぼすことがあります。

医療での治療や、言語聴覚士によるトレーニングなどが大切ですので、気になることがある場合は是非専門機関を受診してください。

最後に「視覚障害」についてお話しします。

「視覚障害」も「両眼とも視力が無い」「光を感じない」場合を「盲(もう)」、「わずかでも視力が残存している」場合を「弱視(じゃくし)またはロービジョン」と言います。

両眼で判断されるため、片方の視力が障害の判断基準を満たさない場合は障害とは認定されません。また「視力障害」以外にも、視野の広さに問題のある「視野障害」、特定の色の区別が難しい「色覚障害」、明るいと暗いところで適応するまでに時間が掛かる「光覚障害」と、主に4つの障害があり、もちろん障害が重複していることもあります。

学校の健康診断では眼病疾患や視力測定までしか行いません。以前は「色覚検査」も行っていましたが、現在は実施しておらず、発見が遅れることが少なくありません。「色覚異常」は日本人男性の20人に1人、女性の500人に1人の割合で発現します。「色覚異常」の場合、メガネレンズでカラー補正できる場合もあります。

「視覚障害」についても、気になることがあれば一度、医療機関を受診されてみてください。

きたいども状て蔭もてろまに査診てれな詳診にお覚 査保校い病く遣でもが で在 一校てん
だでも検考況、ににあ、う「す。応結のいる場し断つ話」今を健にる院さい子き検あしはは色で一校てん
すもさ査えに勉たり大り受「この。じ果まよ合いので一回実室お場受がやどす。実合、のあか実学覚全るいん
よ、しん結ら陥強り、きま診と、なすささ自く 受つや、に、査検はは覚、い、しはをわ文さ。実合、のあか実学覚全るいん
お対の果れつに、そ病がれ已ら 診い、まお病や査学聴に言「た養出、たれ字ん。施は保い康で健康で
願しり常併す。すで、に、か、は、ごを丈 勸も科、りを療を校力つ語す。論さなわれ見品。施は保い康で健康で
いてと生せ。るき、に、か、は、ごを丈 勸も科、りを療を校力つ語す。論さなわれ見品。施は保い康で健康で
したてにこなよれそ家さだ い要検しさ要し、康力の聴 検。学も、に